

平成28年度

第2回 徳島県いじめ問題等対策審議会 議事録

- 日 時 平成28年8月30日（火）午後2時から午後4時
- 場 所 県庁 10階 大会議室
- 出席者 14名（1名欠席）
- 会議概要
 - 1 開会
 - 2 (1)教育委員会あいさつ
(2)会長あいさつ
 - 3 協議
 - (1)いじめ問題等対策検討部会からの報告
 - (2)ネットいじめ・トラブル対応のために児童生徒に伝えたいこと
 - 4 閉会

【部会長】

（第1回いじめ問題等対策検討部会の報告）

【会長】

現在、いじめ問題等対策検討部会で、ネットいじめ防止に関する資料作成に取り組んでいる。中身について、前回の対策検討部会で話し合われた項目以外で、こういったことを伝えたい、あるいは、項目についてこんな切り口で、こんな材料で子供たちに示したらどうだろうか、といった御意見、アイディアを頂けたらと思っている。

【委員】

現在6年を担任しているが、約半数以上はケータイやスマートフォンを持っている。携帯電話とかスマートフォンをどうしたらいいですかとお家の方から相談があった。特に長期休業に入ると、家の方が留守にするので子供の様子が気になるのでケータイを持たせているという家が多いようだ。

前年度も6年を担任していた。携帯電話やスマートフォンを持つタイミングとしては、1学期の終わりか、卒業の時に「中学の入学祝い」ということで持たせるケースが多かった。

女子でSNSによるトラブルのために人間関係が壊れていく者が多くあり、昨年度困ったことがあった。学校では仲の良い友達であるが、携帯電話やスマートフォンを持っている児童と持っていない児童の間で、学校外で連絡を取り合う際、SNSグループでトークして、持っていない児童が学校でその話題に入れないことで、仲間外れにされたというトラブルが多々あった。今年度はまだSNSトラブルに遭遇していないが、SNSでトークをしている児童もいる。家庭と連絡を取る中で、家庭で携帯電話やスマートフォンの使用時間を決めている家庭は半数くらいという印象である。

友達と直接会って話をするのが苦手な子供もおり、SNSであれば自分の素直な気持ちを表せられるため、中学校に行ってSNSのグループで仲間ができ、登校できるようになった子供もいる。私は、中学1年生や小学校高学年はインターネットよりSNSのトラブルが気になっている。

フィルタリングに関心を持っている児童は少ないのだが、昨年、保護者がゲーム機のフィルタリングをかけてなかったことにより、児童が画像を閲覧したといった報告が1件あった。

【委員】

小学校低学年用のチラシには、保護者向けのスペースをある程度作ったほうがいいかと思う。まだ持っていない子も多いし、保護者がどう管理するか。家庭でのルールについて決めることやフィルタリングの設定について、保護者向けに説明するスペースがあればいいと思う。

ネット依存のチェックリストだが、厚生労働省が使っているキンバリーさんの8項目を使うのか。

【部会長】

まだそこまでは考えていない。

【委員】

チェックリストを載せるとなるとかなりのスペースを使うと思うので、ほかとのバランスが気になった。

また「顔も知らない人とつながること」というのは、先日の（埼玉のリンチ）事件のように顔を知っていてもあのようなことになるので、顔も知らない人だけでなく、自分がこの人とつながるのはどうかなと思うような人と無理につながらなくてもいいんだよと呼びかけたらどうかなと思った。

それと依存症の心配で過去の調査では、高校生や中学生で52万人ほどいる。そうなれば依存症にならないための方策が何か盛り込めたらいいと思った。

私もスマホを使っていないのでよく知らないのだが、時間制限のアプリがあるようなので、そのあたりも盛り込んだらと思った。

【委員】

高校生を持つ親として、学校からの手紙等は親に見せてもらえない。そのため、高校も三者面談を利用してチラシを配付したり、研修会で講師先生を呼んでネットの話やトラブル、いじめについての講演をしてもらっている。

はっきり言って、自分の子供や身近な子供がそういった状況になっていないので、一保護者としてはピンとこない。こうした形式で書かれてもピンとこないで、具体的なトラブルの話があって、子供たちとか、周りの人の考え、対処の仕方を高校生用には明記されていれば「なるほど」と興味を引くかなと思う。

小学校の低学年だと、先ほどの委員さんも言っていたように、保護者に伝えるのであれば具体的な例。子供の目を引くのであれば視覚に訴えて、これは危ないことなのかなとわかるようなものであればと思う。

【会長】

今までの意見について何か質問があればどうぞ。

【委員】

今、小学校では学校に携帯電話を持って行ってもいいのか。

【委員】

学校にもよると思うが、前任校は、携帯電話もキッズケータイも持込み不可で、家庭の事情で使いたいとなれば申請書を届け出たら大丈夫だった。ただしスマートフォンは禁止であった。

【会長】

依存症についても言及されていたが、依存症に関わる相談もあるか。

【委員】

学校に行きにくいとか、休みがちな子に聞くと依存度が高いように感じる。これは中学生でもそうであるし、大学生でもそうである。

【会長】

それは時間的な依存の問題か、または課金というか、お金をどんどん掛けてしまうような問題か。

【委員】

課金というよりは、時間的なもので、スマホを触っている時間が長いというものである。

【委員】

中学生と高校生の子供がおり、二人ともケータイを持たせている。家庭でのルールづくりで、使用時間については、ほっといたら子供はケータイを見て、ゲームして、ずっと触っている。特別に使用時間を設けていないが、目に余るときは「もうケータイ、アカンのと違うん」と言うところでは素直に「わかった」と言ってやめている。仕事に行っているときや休みのときなどは親の目が行き届かないので、ずっとしていると思うので、なかなか難しい問題である。テスト前にはケータイを取り上げたりするが、ほっといたらずっと使っていると思う。

このような状況でトラブル的なものは、書き込んだ本人は悪いこととっていないようだが、人が見たら「これってちょっとイカンのと違うか」といった書込みがあったことは何例か聞いたことがある。このような書込みをする子供って、はけ口がないので書き込むことによって自分の気を紛らわすという感覚だと思う。この件に関しては学校に言ってすぐに対処してもらったのだが、あまり悪いことだと思ってなくて書き込んだという印象を受けた。何が悪くて、何がいいかを子供たちに教えてあげたらいいいと思う。

あと、ネット依存についてだが、この間、テレビを見ていたらケータイ依存症を更生させるような番組があった。その子は小学校高学年か中学生と思うのだが、ずっとケータイから離れられず、ゲームをして、毎日ログインしないとポイントがもらえないとかで依存症になって、学校も休みがちだった。ケータイから離すために先生が2泊3日のキャンプを計画した。それは、ケータイを取り除いて、自然と触れ合うキャンプだった。最初はケータイに触れなくてムズムズしていたのだが、釣りをしたり、キャンプファイヤーをしたり、みんなでご飯をつくる。みんなで何かをするというもので、帰る頃には、「ケータイはなくていい」というところまでその子の気持ちが変わったという番組を見たことがある。昔であれば、外で遊んでいた。私が小さい時も外で遊んで、ケータイもなかったので家ではテレビを見るくらいだった。今はケータイさえ見ていれば、ゲームもできるし、ネットを見て情報も得られるという感じで、依存症になってしまいがちなのだが、生活環境をケータイから離すような何らかのプログラムがあれば、ちょっとは依存症を治せるのではと思った。

【委員】

対策検討部会でも小学校の低学年と高学年では発達段階で差があることを話した。私たちが相談を受ける場合、ネットトラブルは比較的少ないが、多いのは家庭でのルール作りができていない場合である。先の委員さんからの話にもあったようにルール作りができていない家が半分くらいで、半分はできていない状態を私も感じる。「やめなさい」と言って

やめる子であればいいが、「やめよ」と言ってもやめない。「どうしてやめんの」「なんでやめなあかんの」と言い合いになる。先日も真夜中に子供が暴れて困っていると電話があった。理由は、夜寝ないことだった。ケータイをしていて寝ないことが原因で、子供がお父さんから怒られけんかになったというトラブルだった。殴り合いになり、暴れて困っている。どうにかしてくれという電話だった。私たちにとっては、ルール作りができていないことが原因という問題に映った。ルール作りができていないために生活リズムが崩れて学校に行けない。学校にいけないことで不登校につながったりとか、学校にいけないことで「早く行きなさい」という親からの叱責があったり、叩いてしまったり、包丁が出たり、手が出たりとなってしまう家もある。また、親からの虐待による場合もあるが、子供が暴れるという家もある。私はルール作りを小さい時にしっかりしてほしいと思う。

それと、お小遣いについて1軒だけでルールを作っても一緒に遊ぶ友達が大金を持っていれば、子供の中では通用しない。お小遣いが50円の子供と1000円の子供で、「うちはうちやけんな」ではうまくいかない。ある程度合わせなくてはいけないと思う。「うちはうちでやっているけど、周りはどんなルールでやっているか」をお互い知り合うことが必要なのではないかなと思う。「うちはうちじゃ」では子供も反発するだろうし、親も指導がしにくいだろうし、共通理解ができる機会をもてればいいかなと思う。

ネットトラブルのことで、文字面（もじづら）というか、文字だけでやり取りをするので、人の顔とか表情を見て総合的に判断するのが苦手な、発達障がいの子にとって楽な場合もある。書いてある文字だけで相手の意図を判断できるので、こういったコミュニケーションを好むわけだ。人と会って対面して話しするよりは、SNSでのやり取りの方が楽と感じている。「そんなこといわんといてバカ」といった感じのことが、文字面から受ける「バカ」では強く感じられたりする。自分を否定されたように感じ、怒りになり、衝動性により、ネットトラブルにつながることもある。

面と向かった人とのやり取りだとか、自然とのやり取りとか、実体験とかを大事にしていかなければいけないと思っている。

【委員】

A4の1枚裏表となるので、欲張って、「これも伝えたい」「あれも伝えたい」となれば、結局何も伝わらないということになってしまうのではないかな、ということを感じている。中学校・高校への啓発は想像できるが、小学校低学年への子供たちにどう伝えるかということが気になっている。先ほどの委員からも保護者への面という意見があったが、一昨年は人権教育課から保護者向けリーフレットを配布しているようだ。文字だけでなくイラストを使って、思い切った紙面づくりを小学校低学年にはした方がいいのかなと考えている。

【委員】

いじめもそうだが、ネット上でのいじめの実態なんかを見聞きすると、その人たちの心に届くような文章とか、何かを考えさせるような事例みたいなものが、目に届くのかと自分には明るい展望が感じられない。それでもネットでの書込みの話もあったが、悪口を書くという当事者にとってはいじめという感覚はないかもしれないが、書かれたものを書かれた人が読むときの印象はすごく大きな衝撃があると思う。そんな衝撃があるんだということを知ってもらえるようなキャッチコピーがあればいいかなと思う。現実、私もネットを通して私自身のことをいろいろ書かれたことがあった。それも私は気が付かなくて、その人のブログの中に私に関することを書いてあることを、私の友人から「知ってるで」と聞かれ「そんなことは知らない」という状態だった。そしてその人が書いている内容は、私

にとって夢にも思わないようなことだった。いい関係だと自分では思っていただけに、それを読んだ時の衝撃は……それが毎日続く。次から次と……その人の立場から感じている世界。ちょっとストーリー的な内容なんだが、もう止めようがない。私は知らないという立場で、3か月くらい毎日プリントアウトしてファイルにとじていた。

3か月過ぎてもうやめようと思った。私と私の妻に関することなんだが、それを深く読むと傷つく、それによって心穏やかにいられない。そしてその書いている人に怒りとそれに対しての報復を考えてしまう。そんな自分がとても嫌になって、もう「見まい」と思うようになった。「見まい」と思うことにしたが私の心には、今も生きている。それほどネットに個人的に言われたことでなく、公共の状態で誰にでも読める中に、こちら側の認識としては事実と違う悪口を…あちら側からすれば事実なのかもしれないが…そういうことの重大さを子供たちにも知ってほしい。悪口を言われた者の痛みがどれほど大きいかということを知りたい。ただ、どういうふうに訴えたらいいのかということは非常に分かりづらいことと思う。

ネット依存のことについては私も心を痛めている。これは時代の流れということもあるし、その時代時代の中でいろいろな生活をしていく上で便利な機器である。ただ依存ということについては啓発が必要だと思う。アルコール依存や薬物依存と変わらないほどの依存性、行為としての依存は大きいと思うから、私もチェックリストをたくさんではないが、何ポイントかを載せて、そこから脱却していく道があるのかについて明示もできたらと思う。紙面の関係でこれを入れたらこれだけになってしまいそうなので、無理は言えないが……

私も精神保健福祉士という立場で診察にも同席する。薬物やアルコールと同様にそこから脱却するのは難しい事例を見ている。病院にもかかっていない人もたくさんいると思うが、家庭の中でコントロールできない障がいなので、それを止めようとすることでの家庭内のトラブルが起こることがある。ネット依存についても病気のような状態になることを知るということをパンフレットの中に盛り込むことも必要かなと思う。

【委員】

生徒のネットトラブルに対応することがある。ネットトラブルを予防する方法としては、情報モラル教育であったり、ルールの整備というのが、効果があると思っている。ただ、情報モラルといったときに多くの人が特別な教育と考えがちなのだが、僕自身がいつも感じることは、根本は日常のモラル。他人を思いやることであったり、節度であったり、正義感であったり、そうしたことを考えることであったり、見ていくと日常モラルの低下とか、不十分なことがトラブルに起因し、つながっていると感じる。

7月27日。徳島市で小学生と中学生の共同によるいじめの会議があった。その際、小学生、中学生が共に話し合う中で出てきたのは悪口、陰口というものの脅威、そのことへの悩みがたくさん出てきていた。ネット上に書かれるということで特別なことのようにになってしまうのだが、僕も中学生の頃から目にし、自分自身が経験してきた友達づきあいの中での苦しさのように思う。情報モラルという言葉が表にはたくさん出てくるのだが、今一度日常のモラルについて家庭の力を借りたり、一緒に考えたり、親とのコミュニケーションの中で家庭でのコミュニケーションの中で考えていくという機会をとってほしいという願いを発信することも大事なのかと思う。会議の中で子供たちを見ていて思ったのだが、「特定の子がいじめられる」とか「特定の子が加害者になる」というものではなくて、誰しもが加害者にもなるし、被害者にもなる。移り変わっていくと捉えているし、またその

ときに止める勇気を、自分には奮い立たせることは難しいと子供たちは感じている。なのでルール整備とか、モラル教育の発信とともに私自信は「大人は子供たちの悩みの相談を待っている」というスタンスを伝えていきたいと思っている。相談を希求している。子供たちの成長に大人たちが関わりたいと思っている。何もきれいなことばかりではなくて、失敗でも成長に関わっていきたいんだというメッセージを出していくべきだと思っている。

【委員】

家で思ったことをメモしてきたが、委員の方が言っていたことと同じようで、私も小学生の低学年には保護者向けのものがあつたほうがよいと思っている。1枚もので裏表にするのであれば、反対側は保護者向けにして、契約や購入までの話し合いをしてほしい。買ってしまった後からのルール作りは難しいので、買うまでの具体的なルールをあげたほうがよい。

私は大学生の子供がいる。大分前のことなのだが、夜の11時から朝の7時までは、どこにもつながらないようにしていた。部屋にケータイは持って行かない、使うのは居間でみんながいるときだけ、と最初にルールを作った上でだったら購入するとした。子供はすごく嫌がっていて、ルールを解除してほしい、フィルタリングの解除に行きたいと言っていたが、そのままで高校3年まで頑張ってもらった。こういうふうに購入するまでに約束して、守れないのだったら契約を切るというのを保護者の方にも子供が小さい時から教えておくのが大事ななことかと思う。

だから半分くらいは保護者向け。子供たちは文字ばかりでは見ないし、小学生低学年ほど絵やイラスト、またマンガの吹き出しで『これは犯罪なんですよ』とわかりやすくしてあげたらいいと思う。

下の子が中学生の時なのだが、携帯電話会社がきて話をして、いろいろプリントをくれたが、その人が帰ったらくずかごの中がそれでいっぱいになっていた。その時、パッと見るだけで子供たちは、それが心に残ってくれていればいいのだが、見て「こんなんわかつとるわ」という生徒が多いので、興味を引けるようなイラストとかマンガとか、全部を詰め込まなくていい。中学生や高校生であればインターネットのリスクを教えることが大事だと思う。よく子供たちは写真などの情報を交換することを通してやり取りしているが、それも位置情報が入っていれば、住所とか特定される怖さ、恐ろしさを具体例なども挙げてもらえたら子供たちにとってわかりやすいのではないかと思う。全部が入っていないくても三つに分けて入っていればいいのではないかと思う。

【委員】

対策検討部会では、小中高の校種別3種類に分けるという案もあつたが、ケータイやスマホに対する意識も違うということで、小学校を二つに分けた方がいいのではないかという話をし、そのような感じになった。

私は、ネット依存のチェックリストは入れたほうがよいと思っていた。特に皆さんの話にもあつたように、文字ばかりだと中高生になると読むこともせずにゴミ箱行きになる可能性もあるので、自分のことを客観的に見ることができるチェックリストで、自分の状態を把握し「俺ってネット依存になっていたんだ」と自覚できるチャンスかなと思った。子供たちなので、ゲーム的要素ではないが、占いや1～20までの質問項目で該当するものが幾つというようなものでもいいし、「YES, NO」で幾つかのタイプに分けるものでもいいと思う。そして自分はこのタイプだったんだと判断できる「おもしろみ」と言えば

語弊が生じるかもしれないが、遊び感覚で臨めるチェックリストだったらいいのかなと思う。あと、紙面が許せばだが、その後の対策まで記すことができればとも思う。

先の委員も言っていたように、私も小学校低学年は保護者と一緒に見るというものがあると思う。片面は子供が見やすい内容で、もう片面は保護者と一緒に話をしながら見えるような内容のもの。もちろんイラストが多くて、1, 2年のお子さんだったら交通ルールを守る標語のように「～しない」とか「～しよう」といった、断定的で短めな言葉のほうが、子供たちに入りやすい。小さい子供たちが人との付き合い方を自覚できれば大きくなったときに「三つ子の魂百まで」じゃないが、そうすれば上手にネットと付き合っていけるのではないかと思う。

あと、「信用できないアプリはダウンロードしない」というのは、無料アプリはなぜ無料なのかということをお子たちに知らしめる。無料というのは個人情報との交換があるから、無料にしている企業もあるわけで、子供たちは「タダだ。タダだ」と何でもダウンロードしていたら、自分の情報を相手に与えていたということがある。今回の『ポケモンGO』のアプリが出る前に類似アプリがいくつも出ていた。それも個人情報を得るために出していたということを知っていただいてもいいのではないかと思う。

【委員】

本日の資料の決定事項の1に、児童生徒用資料であるため枚数が多く、予算を考慮し、A4一枚ものを作成とあるが、A4のチラシを配るのであればできれば表裏にして、先ほどから意見がでてるように片面はわかりやすいイラスト等を使ってほしい。(参考に徳島市で作った資料を提示) こちらは先生用資料として作ったものである。できれば裏表で片面はイラストを使って子供たちの注意をひくようなデザインにして、裏面にはチェックリストを入れるとともに、できれば困っているとき、苦しんでいるときに連絡できるような相談機関の電話番号をいくつか載せてほしい。県下全部に配るため、連絡先から地元の教育委員会の連絡先を紹介して、県下全体をカバーしたような連絡先であればと思う。困って行き詰まったときにどこか手がかりになる連絡先を載せることによって本当に困っている子供たちがどうしたらいいかわからないときに相談できる先の情報を裏面に入れるのも大事かと思う。

【会長】

できれば他の委員にも見ていただきたいので回覧してもよろしいか。

(持 参 資 料 を 回 覧)

【委員】

今回の資料は児童生徒向けで、しかもA4一枚ものということになっている。個人的な意見であるが、情報量については極力制限すべきであろうと思う。「あれも言いたい。これも言いたい」では、伝わらないと思う。先ほど来、各委員からあったように、表面は子供向け、裏面は保護者向けでいいのではないかと思う。最も重要なことは、子供である児童生徒に言いたいことなので私の立場から言わせてもらおうと、昨年度作った教職員用の冊子によいことが書かれている。私が一番言いたいことがここに書かれている。「ひとりで悩むのではなくおとなの誰かに相談することが大切なことを教えましょう」とある。このとおりだと思う。いじめであったり、ネットのトラブルであったりというのは子供の力で解決できるものではない。これは大人に相談するということが大事である。私の立場で言いたいことは「ひとりで悩まないで誰かに相談してください」ということ。だから資料に載せたいことは相談窓口の周知である。昨年度の資料にもいろんな相談窓口が書いてある。

県のHPに載っているのだが、総合教育センターであったり、いじめ相談ダイヤル、子供人権110番であったり、警察のいじめホットライン、ヤングテレフォン、中央こども女性相談センターの電話番号があるといったこと。そういったメッセージを出して「ひとりで悩まないで相談してください」ということを訴えたい。

これも個人的意見だが、資料を見て「ハイおしまい」になるのではなく、子供の学習機のシートに挟むとか、前に貼るとか、例えば冷蔵庫に貼るとか、マグネットで貼るとかしていつでも見られる状態。手元に置いていつでも見られる状態のような所に置いておくというのが大事である。急にいじめられて、「どうしたもんだろうか」としばらく我慢して辛抱して、相談するのだが、目の届く所に窓口の一覧があるということは、子供を助ける場所を教えることになり、大事だと思う。

それと、「インターネットのリスクを伝える」「慎重な対応を勧める」であろうと思う。便利だから皆、使っているわけだが、危険なリスクがあることを伝えなくてはいけないだろうし、対応を知ることでも大事である。信用できないアプリはダウンロードしないといった慎重な対応も大事なんだと教える。

情報量を制限しないとせっかく教職員用もあるのだから、児童生徒用は、必要なことだけを手元に置けるような形にすべきでないかと思う。

【委員】

今、リーフレットの話があったが、皆さんも感じていると思うが、なかなかリーフレット一枚で多様な児童生徒に啓発することは難しいと思う。高等学校の現場にいて、全校集会や講師の先生を呼んでとかいろいろと学校でしているが、一度に大人数に知らせようとするほど、どうも届いてないのではないかと感じる場所である。こういったものを出すのであれば、学校現場と連携して、クラスで啓発授業を総合的な学習の時間やホームルームを活用し、教育委員会と連携して少ない人数に落とし込んでいかないと百人、二百人、三百人を前にマイクを持って言ったところだというところはよく感じる場所なので、啓発するのであれば、隅々まで浸透させたいというのが願望で、県を挙げて取り組まなければいけないと思う。

徳島県はネット環境がよく高速通信とかで県の独自性を売り出しているが、それがあれば、ネットマナーでも全国一になってほしい。県として教育現場と連携していくことが大事なんじゃないかと思う。

一枚のものを配って、どこまで浸透するのかということが危惧するところなので、できることならという気がしている。

現場の意見としては高等学校でもSNSのトラブルが多いので、SNSのトラブル事例は必ず入れてほしい。リベンジポルノであったり、画像というのは、もちろん問題点ではあるが、多くの人が経験するようなものでもない。それに比べSNSは非常に身近で、ちょっと友達になったらすぐにSNSの交換がされるのが常である。最近ではSNSのグループを幾つ持っているかで序列が決まるということもある。僕らには考えつかないようなことで、いじめや排除したりということが起こっている。SNSについて教師も知っておかなければならないと思っている。

今は支援学校に勤務しているので、そういった事案は発生しないのだが、前任校でいる時などは、今どういったことがはやったり、トラブルになっていたりするかを雑談の中で聞くことがあった。

教員になったばかりの時に悩んだことがあった。生徒からメールアドレスや連絡先を教

えてほしいと言われたときに、最初は教員と生徒で必要のないことだと断っていた。しかし、悩みを持っている生徒がいて、その生徒が周りの目もあって職員室にもこられないケースなどは、メールというツールを使って、「今、こういった事が起こっている」「こういった事に悩んでいる」といったことを打ち明けてくれたりもした。SNSでいじめが起こるなら、SNSでいじめられている子を助けることも一部ではできるのではないかと考える。活用の難しいところではあるが、教員が全ての生徒のメールアドレスを知らなければいけないとなってくると問題もあると思うが……高等学校は修学旅行で1日自由行動などがあり、事前に全員分の連絡先を聞いたりする。なのでその延長線上でメールがきて、いじめがわかることもあるし、悩みを打ち明けられたこともある。教員と生徒の距離感も大事である。それは信頼感だと思う。生徒は誰でもメールするわけでないと思う。やはりこの先生だったら聞いてくれるかなと思いメールをしてくるので、教員への信頼感の構築は大事だと感じる。だからこういった資料を打ち出すのであれば、学校現場との連携が大事でないかと思う。なんとかネットマナーも日本一の徳島になってほしいと思う。

【会長】

全員に意見を聞いた。この会が終わるといじめ問題等対策検討部会の三人の委員に任することになるので、三人の委員がこの後、作業をしやすくするためにもヒントになるような意見・アイデアを是非提供してほしい。この後は順番ではなく、自由にディスカッションできればと思っている。

まず、私から相談したいことがある。今、聞いていて「ネットいじめ・ネットトラブル」への対応がキーワードだったが、私たちの役目の大きな枠組みはいじめ問題なので、ここでいう「トラブル」について、私は、SNSの問題などネット上でのコミュニケーションをめぐる人間関係上のトラブルという意味で捉えているところがある。別の意味では、依存症や個人情報漏れなども大きな問題ではあるが、本審議会としてはネットトラブルの話をどこまで広げるかということを考えておく必要がある。それについて決めておかないと対策検討部会の三人の委員が困るであろう。

単純に考えるとこんなことがいえないだろうか……ネットいじめもネットトラブルも人間関係の中での話である。一方、ネット依存は、根深い問題ではあるが、人間関係ではなく個人で完結する問題で、いじめという概念でくくれない面もある。確かに依存は大きな問題である。参考までに隣国の韓国にもいじめはある。「ウンタ」「ワンタ」など呼ばれているが、韓国ではいじめ問題以上にネット依存のほうが明らかに大きな社会問題となっている。勉強しない、睡眠しない、食事もしない、ずっとネットをしていて死者まで出ている。我々としてはネットいじめとネット依存、どちらに重点を置くかを考えておく必要がある。

【委員】

これも複数の委員から意見があったが、紙面が限られているので、あれもこれも入れていたらかえってわかりにくくなる。どこにスポットを当てるのかというあたりを私たちも議論し、整理して三人に渡したいと思う。

要するにネット依存にどの程度割いて触れていくかになる。ネット依存はゲーム依存も入ってくる。SNSについてもありかなと思う。そのあたりについて意見を頂きたい。

少し話題がそれるかもしれないが、相談を受けている者として「依存」の話をする。依存により生活リズムが狂ってしまい生活の立て直しができない者がいる。私たちの機関は、一時保護所という子供を一時預かる施設を持っている。そこで行動観察をして、1週間と

か2週間とか生活の立て直しを図る。それは短期間なので、これで無理な場合は、児童養護施設等の施設に入所をして長期にわたって生活リズムの改善や親子関係の修復をする。そういった子供たちがたくさんいるということを知ってほしい。

課金とかの問題でも、学校は知らない事案も多い。私たちが知っているもので30万円も課金してしまった子がいる。自分のケータイを止められたら、親のケータイを使いトラブルになっていることもある。学校の先生には言いにくい情報も入ってくる。依存という問題は十分大きい。

【会長】

確かに依存の問題も深刻なので、広い意味で子供たちの「他者と共に生きる生きる豊かな生き方」というテーマと絡めるのも一つかと思う。

【委員】

大多数の子供は人間関係のトラブルやいじめは、自分とあまり関係ないと思っているところがあって、みんなが該当するかもと思うのはネット依存だと思う。だから片面はネット依存。中高生にとってはネット依存を前面に出して、チェックリストも13年度に厚生労働省が出した8項目を使えば、かなりスペースが縮小される。それと防ぐ方法。裏面にリスクとかモラルとかを中高生向けに出したら、みんながハッとして見てくれるのかなと思う。

私もスクールカウンセラーだよりにチェックリストを出した際、相談者が「自分も依存かも知れない」ということがあったので、みんなも関心を持つと思う。

小学生向けはルール作りを基本にしたほうがいいかと思う。内容はストーリー仕立てにして漫画にすれば関心を持ちやすい。そして片面は保護者向けにルール作りのヒントのようなものにしたらいいかと思う。

もう一つ心配なのは、「使い放題」、「かけ放題」にしていることである。これもリスクが高いかなと思う。子供に「これだけ使ったらお金かかるんちがうん」って聞いたら、家族ぐるみで使い放題にしている。そういった点も保護者に考えてもらいたい。

【委員】

否定するわけではないんだが、今回のこのタイトル自体が、いじめ問題対策の会議なので、個人のネット依存うんぬんというのは、情報量の制限もあり、本当に伝えたいことかという、私見だが載せるとしても裏面と思う。ネットに関連したいじめにどう対応するのか、どう対処するのかというところを訴え伝えるべきだろうと思う。ネットいじめに絡んで、SNSでの誹謗中傷が回ったとか、SNSで仲間外れにされる。SNSで既読（未読）スルーされるなどいろいろないじめがあると思うが、そういったことがあったときにどう対応したらいいと、いじめに特化した内容にした方がいいと思う。決して否定するわけではない。

【委員】

いじめに関することが死に直結しやすいと思う。今年は42日間の夏休みだったが、夏休みが終わるに当たって思うのは、早く元気な子供たちに会いたいということだ。長期間、子供と離れる中で命の心配を一番にする。生徒指導主事として集会で話をする時も、長期の休みの前には命に関わる事故や事件、そうしたものに关わる注意喚起をする。今のニュースを見ていると、いじめというのが子供の命に関わる大きな事件になっていったりするので、内容を絞ってリーフレット、パンフレットを作っていくならば、いじめが一番に優先されるのかなと教員として思う。

【会長】

この後、部会のほうにボールを戻すことになるので三人の委員から質問や確認、方向性について何かあれば意見をお願いしたい。

【委員】

いろいろと貴重な意見を頂いたが、次回この審議会は1月の上旬になるようだ。それまでに2回ほど対策検討部会を持つ。今日頂いた意見をまとめるのも大変なのだが、よく吟味しながら加えていきたい。「私の意見が入ってないでないか」と叱られても困るので、ある程度できたら委員に送り、意見を頂くことになる。原案を見ていただいているいろいろと意見を頂ければと思う。繰り返しになるが全部が全部網羅することは難しいが、今日の意見からチェックリスト、一人で悩まないよう連絡先は必ず入れる。低学年の場合はルールづくりとか、児童用と保護者用を片面ずつにしておくこと。低学年にはイラストを多用して子供たちの気を引けるように工夫したいと考えている。

【委員】

三人の委員には苦勞をかけますが、我々委員はSNSこそ組んでないが、絆はあるのでお任せするという事でよろしいか。

資料を作成する過程で趣旨がぼやけてきたというのであれば、取捨選択してもいい。たった一枚されど一枚。一枚で完結して、私たち大人が是非このメッセージをとというものが伝わるようなものを期待している。そういうと大変なことをお願いすることになってしまうかもしれないが……。

【委員】

もし保護者面ができるのであれば、フィルタリングの方法が何種類かあるのでその紹介もいいと思う。

また、最近耳にするのが「SNSいじめ監視アプリ」なるものである。これは子供のSNSに「死ね」「バカ」などが文面にあったら、保護者のほうに知らせるアプリがあると聞いた。そんな紹介を保護者にしてあげるのも必要かと思う。

【委員】

子供たちは、それがあってるので隠語にしているようだ。「死ね」という言葉をダイレクトに書くとわかってしまうので、数字で表したり、「死ね」に代わる言葉を使ったりしている。結局イタチごっこになっている。

大学生になる子供がいるのだが、我が家は高校生の時にスマホを持たせた。その時、高校生向けが一番緩いフィルタリングにした。「これだとSNSで画像が送れない。スタンプももらえない」と言うので結局、情報が行き渡らないという理由でフィルタリングを外してほしいと言われた。今の中高生は、SNSがしたいのでスマホにする子供も多いと聞く。SNSでみんなが何を言っているかわからないのでは仕方がないということで、私はフィルタリングを外してしまった。

今は変わっているかも知れないが、高校生に携帯電話会社のフィルタリングにしたら、うちのように外してしまうことになるかも知れない。徳島県のこども未来青少年課から出た資料に三つフィルタリングが紹介されている。「携帯電話回線」「無線LAN回線」「フィルタリングのアプリ」それぞれに設定ができる。私も機械に疎いので、もしそういったことが分かるサイトがあれば明示して、「アクセスしてみて」と情報を与えたら判断材料にする人もいると思うし、少ないスペースで済む。

【会長】

私も思っていたのは、スペースが限られており、チェックリスト一つとってもそうだが、厚生省の8項目でもそれなりのスペースを取るの、一つの方法として「〇〇にアクセスしてね」とか、「依存について知りたいならここを見てね」とURLを表示しておくなど、サイトの紹介にする方法もある。レイアウトの問題もあると思うので三人の委員の方も考えてみてほしい。収まりきらないときは、サイトの紹介というのも一つの編集の方法としてはありかと思う。

ここまでのことで教育委員会から何かあれば……

【事務局】

委員の話の中で、中高生にはチェックリスト、リスクの紹介を中心に構成する。小学校低学年に関しては各面に保護者用と児童用にする。ケータイを持ち始める年代の小学校高学年あたりには何を中心に構成したらよいかについてもっと具体的な意見があれば助かる。

【委員】

委員が言った「いじめ自殺」、「ネットを使ってのいじめ」がメインでいいかと思う。実際青森県で2例の自殺が起こっている。統計では9月1日が小中学生の一番自殺が多い日になっている。携帯電話、スマホを使ったために命を失うというのが残念なことなので、そのキャッチフレーズを前面にというのは賛成である。ケータイを持ち始めた子には危険性やモラルを教えることが大事なのかと思う。

【会長】

子供たちの心をわしづかみにするようなキャッチフレーズを考えてほしい。配ってもすぐにポイと捨てられるという話もあったが、どうせなら捨てられない「おやっ」と思うようなものを作りたい。

今あったキャッチフレーズやキャッチコピーについて、あればアイディアを出していただければと思う。例えば「おじさんおばさんが若い時にはケータイはなかった、でもね……」など。そこにはバーチャルな世界では体験できないものがあつた。リアルな世界ならではの体験を知ってほしいというメッセージでもある。

結果としてはルール・モラルの話ではあるが、直球で「あかん」といえばゴミ箱行きになりそうで仕方ない。「時間を守りましょう」なんてことは言わなくても子供たちは分かっている。「いくら使ってもいい」とは思っていない。でもやめられないという世界である。大人の本気として、伝え方に何かひとひねりがほしい。

【委員】

キャッチーなものが子供たちに届きやすいと思う。CM会社のCMを見ていてもずるいと思う。例えば携帯ゲームのCMというのは、必ずゲーム内の話で終わるのではなく、そこに部活動の先輩との様子が映り込んでいたり、転校生が携帯を通じてすごく親しく肩を組んで、仲間が一瞬にしてできた。現実とは違ったずるい広告があると思う。我々もずるいかも知れないが、どこか仕組んで年齢に応じた訴え方をする。アイディアを出せといわれると難しいが、中学生の今の実態からするとキャッチーなものがいいかと思う。

【会長】

なるほど、おもしろい見方である。確かにゲームでないところの生身の人間がテーマになっている。

【委員】

小学校高学年になると反抗期もあり「〇〇してはいけない」では反発する。素直に聞か

ないような気もするので、「カッコいいスマートユーザーになろう」といった、こうしたほうがカッコいいというアプローチもあるかなとも思ったが、スマホを持っていない子の関心を掘り起こしてしまうかもしれないと思う。

上から「してはダメ」、「してはダメ」では逆効果なのかなと思う。

【会長】

私は同和教育、人権教育も大学で教えているが、「差別をしない」というメッセージと「豊かにつながる」というメッセージでは、根っこにあるものは同じでも意味合いは違ってくる。

【委員】

小学校高学年でケータイを持ち始めるきっかけは、親しい友達がケータイを持ち始めてゲームを始めた。ゲームをしたいので「スマホ買って」から今ではSNSが主流になってきているので、「SNSをしたいからスマホ買って」になってきている。子供はしたいことが優先になってしまうので、こうするとこういったトラブルに巻き込まれるとか、将来中学校でこういった姿になる、高校ではこうなって将来就職ができるんだろうか。そこまで未来予想がたてられない。

私も今まで何度かスマホの使い方とかを子供に指導した。なかなか難しかったが、講演の中で事例を挙げるとスッと理解できることがある。小学生がケータイやスマホを持つのは悪いと言えないが、使い方とか、将来も見据えて使うんだよというキャッチフレーズがあったらいいと思う。

【委員】

最近の生徒は子供扱いされるのを嫌う。子供扱いするとなびかないので、大人と同じように扱って、まだまだ十分でないモラルの感覚とか、まだまだ未熟な部分を見過ごしてしまっているところもある。

大人からのメッセージという形でキャッチーを作る方法もあるのかなと思う。「大人だって困っている」とか「大人だって〇〇だ」と、起こり得るようなSNS上のトラブルとか、「大人だって気を付けなくてはいけないマナー」とか、モラルに関することがあると思うので、大人扱いしてほしい子供たちに対して、「大人だって気を付けているんだよ」という意味合いのものでもいいのかと思い付きで申し訳ないが感じた。

【委員】

私は不器用な時代と便利な時代の過渡期の人間である。現状を分かってもらえるようなものにしたらと思っている。禁止事項にしてしまうとよくないというのは実感しているので、キャッチフレーズのことだが、「SNSで親友を作ろう」とか「こういう文章、言葉遣いであれば相手に気持ちよくなってもらえる」というのを「親友」という言葉で表現し興味を引けないかと思った。

【委員】

スマホ依存というのは仲間外れになる恐怖なのではないか。日本人は独特の絆依存があるからだといわれている。「絆を作るのはスマホだけでなくほかにもあるよ」といったキャッチフレーズだったらいいのかなと思った。親にスマホを買ってくれと言うのは、「それをしないと仲間外れにされる」そういうのが子供にとっては恐怖なんだ。それだけにスマホだけが絆じゃないというメッセージもいいと思った。

【会長】

なるほど「うまく使おう」というメッセージはいいと思う。

最後に私のほうからまとめというわけでないのだが、本会について考えてきたこともあり、スライドで説明したいと思う。

《スライドの内容》

- ・発達段階に応じた文面の工夫・適切な漢字（ひらがな）表記の工夫。
- ・ケータイの便利さと陰について。
- ・ケータイの上手な使い方について。
- ・軽はずみで送ったメールが相手を傷つけ、自分も傷つけることがある。
- ・「Face to Face」で大切なことを伝える＝「面授なくして伝授なし」
- ・キャッチコピーについて（徳島市で行われたいじめの小中学生会議から）
- ・キムタクが言った「いじりといじめ」の話
- ・「からかう」という文化。
- ・スケープゴートと本当の友達。「悪口を広めるニセモノの仲間、悪口を止めるホンモノの仲間」
- ・「勇気は言う気」。いじめを止めると自分がターゲットになるかもしれない。でも勇気を持って言わなければいじめはなくなる。

以上で本日のまとめにします。